

ご 挨拶

演劇を作るのも、上演するのも、大変な時代になってしまいました。

今までは、大学での演劇の稽古で、たまにマスクをしたまま稽古する学生がいると、

「あなたの表情だって作品の要素の一つなのだから、はずしなさい」

と言っていたのに、今じゃ、

「マスクは全員、必ずつけなさい」

と言わなければいけなくなってしまいました。

演劇の魅力の大きな部分は、人と人の中にあるものだと思います。

舞台上の俳優と俳優の間に、俳優と観客の間に、大切なものがたくさん生まれます。

でも、その人と人の間に、誰も予想しなかった障害物ができてしまいました。

多くの、大人の演劇人は、その障害物にうろたえています。私もです。

今まで、大前提だったことや、大事にしていたことが、

ある日突然、やっちゃいけないことになってしまったのです。

でも、学生たち、若者たちは、そんな前提が少ないからか、

まあそんなもんさと逞しく現実を受け止め、対応し、工夫し、作品を作っています。

大人の私の方が、そんな若者たちの姿から見習うところが多く、勉強させてもらっています。

障害物があるからこそ、大切さが浮かび上がるということもあります。

そう考えると、今という時代は、良い作品を作る大きなチャンスなのかもしれません。

多摩美術大学 演劇舞踊デザイン学科 2020 年度 3 年次 上演制作実習 I

『多摩美能楽集Ⅲ ボクらのアイスプラネット』

監修 糸井幸之介